

16 世紀まで、弥勒寺・宇佐神宮複合施設は 24 の荘園として知られる農地の組織網を管理していた。これらの農地が神社・寺とその信奉者のための米を生産することで地域の安定を維持するのに役立っていた。これら 11 世紀の荘園の一つ田染荘は現在も運用されている。豊後高田の谷間にあり、この複雑に形成された棚田の広がり、この地域の地形に合うさまざまな土地の形状に沿ってゆるやかな曲線を描いている。このように設計された他の田んぼは、近代農業を容易にするため正方形にされてきた。田染荘はそれぞれの田んぼの自然の曲線を維持してきた。さらに、これらの水田は今も機械でというよりも手作業で行われている。西暦のカレンダーが導入される前は百姓達は、いつ苗を植えるか、いつ米を収穫するかを決めるために、取り囲んでいる山間の頂上に対する太陽の位置を利用していた。